

獣害対策の技術研修会 「けもの塾」

2015年11月19・20日の2日間、岐阜県郡上市の母袋スキー場ロッジをメイン会場に、特定非営利活動法人メタセコイアの森の仲間たちが主催する第4回「けもの塾」が開催された。当日は、北海道・愛媛県の各地から、林業支援団体・地域おこし協力隊学生・NPO関係者など17名と、「けもの塾」関係者11名が参加し、「猪鹿庁の作り方」「獣害対策支援現場の視察」「解体処理施設の見学」をメニューとする研修が行われた。過去3回は、座学で「野生動物生態概論」「被害防止計画立案」など、実習では「集落環境診断」「電気柵」「捕獲技術」「ICT（情報通信技術）活用による被害対策手法」などを実施。



スキー場ロッジの大広間で開催された座学の様子

**示唆に富む座学
「猪鹿庁」の作り方**

初日の座学「猪鹿庁の作り方」を担当したのは、メタセコイアの森の仲間たちの代表理事であり猪鹿庁長官の興膳健太さん。猪鹿庁のミッションは「猟師として生き、猟師として山を守る」ことで、獣害対策・里山保全→狩猟→製造加工→販売サービスという連の流れ（下段フロー図参照）を視野に入れて活動している。「特に力を入れているのは、地元農家集落に対する獣害対策自立支援です。被害



猪鹿庁が支援する集落の人が仕掛けた「くくりわな」の現場を視察



「くくりわな」の近くに設置されたセンサーカメラ

「アカルイミライ」は地域にある。狩猟を6次産業化して里山で生きていく！

猪鹿庁のメンバー。前列中央で猟銃を構えているのが長官の興膳健太さん



を受けている方々に、自分たちの問題として取り組んでもらうのがポイント」と興膳さん。

猪鹿庁は2009年より、集落を対象に講習会や捕獲支援、猟具レンタル、捕獲後の処理支援などを実施してきた。開発した捕獲檻「肉の畑」は実用新案特許を取得し、現在8集落に19基が導入されている。また、猪鹿庁の活動により、集落で新規に狩猟免許を取得した人が8名、捕獲補助員（郡上市の研修を受け、檻の設置補助・見回り・餌まきをする人）が78名となったのも大きな成果だ。興膳さん



郡上漁業協同組合の「長良川源流の森」植樹現場を視察。猪鹿庁が獣害対策を支援している



解体処理施設で年間100頭のシカやイノシシをさばく猪鹿庁のメンバーから説明を受ける

私たちはふるさと、つまり地元をこたわって活動をしています。獣害対策は全国一律でいいというものではなく、その地域特有の要因が大きい。自然環境はもちろんのこと、適したわなの種類、防護ネットか電気

目指すネットワークはFKN47

ふるさとけものネットワークは現在4団体で構成されているが、今後は、全国で志を同じくする団体をネットワーク化し、「FKN47」を立ち上げることを目指している。

興膳さんは、その意義をこう語る。

「FKNのFは、Furusatoのフ。私たちはふるさと、つまり



猪鹿庁のマーク

助成団体レポート
行ってみました！
「けもの塾」の現場



研修会初日の朝「くくりわな」でシカを捕獲。夕方、解体の体験会が開催された

私たちはふるさと、つまり地元をこたわって活動しています。獣害対策は全国一律でいいというものではなく、その地域特有の要因が大きい。自然環境はもちろんのこと、適したわなの種類、防護ネットか電気

取材協力
NPO法人メタセコイアの森の仲間たち
<http://metamori.org/>
猪鹿庁
<http://inoshika.jp/>

農林水産省によると、2013年度の「全国の野生鳥獣による農作物被害」は約199億円で、このうちシカが約76億円、イノシシが約55億円。この問題にどう取り組むべきか、獣害対策の最前線「けもの塾」の現場を訪ねた。

獣害対策で地域を元気にする！

里山保全と猟師の6次産業化

